

平成28年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	北海道教育大学	職名	准教授	助成金額	200,000 円
氏名	益子 洋人	印 メール アドレス	mashiko.hirohito@s.hokkyodai.ac.jp		
研究課題（申請書に記入した内容を記入すること。）					
もめごと解決力（ICRS）を高める心理教育プログラムの無作為化比較研究 －二次的効果としての精神的健康，対人関係に焦点を当てて－					
助成金使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）					
<p>問題と目的</p> <p>青年期以降に他者と建設的な関係性を築いていくために，もめごとをお互いに納得して解決する方法を身につけておくことは，重要である。これまで，そのためのスキルとして統合的葛藤解決スキル（以下ICRS）が提唱され，ICRSを向上させるプログラムの効果研究が行われており，一定の効果が見出されている。しかし，調査対象や効果指標が限定的であるという課題が指摘されている。</p> <p>そこで，本研究では，ICRSを向上させるプログラムを，より多様な母集団の青年を対象とした無作為化比較研究によって実施し，ICRSに及ぼす一次的な効果だけでなく，精神的健康指標や対人関係指標に及ぼす二次的な効果からも検討することを目的とした。</p> <p>助成金の使途</p> <p><input type="checkbox"/> 国内旅費（研究会出席）－¥42,770</p> <p><input type="checkbox"/> 図書費－¥3,596</p> <p><input type="checkbox"/> プログラム受講者謝金（QUOカード）－¥39,000（¥1,500×26名）</p> <p><input type="checkbox"/> 通信費－¥4,756</p> <p><input type="checkbox"/> 印刷用紙，文具費－¥5,400</p> <p>研究の現状と現在までの成果</p> <p>研究期間内に，目標数を満たす協力者が集まらなかったため，プログラムを4回施行することとした。現在までに2回を終え，合計26人から協力を得ている。</p> <p>現在得られているデータからは，プログラム受講群は，統制群と比較して，もめごと解決力を測定する心理尺度や，心理的ストレス反応，友人満足度や家族満足度などの各指標において，適応的な方向への変化がうかがわれている。また，自由記述回答においても，「怒りが込み上げてきたとき，6秒間数えて，少し落ち着くことができました」や，「お互いの本当の希望を聞き出すことを意識しているため，もめごとらしいもめごとが起きていません」，「ケンカしている2人を，中立な立場で仲裁することができました」などの回答が得られており，プログラムの一定の成果がうかがわれる。</p> <p>現在3回目のプログラムを実施中であり，19名から協力を得られる予定である。4回目は，さらに35名の協力を得られるよう，尽力する。</p>					
助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合はURLを記載すること。）					
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)		